安全作業手順書【(高所）構造物撤去 】

作成日・改正日	2025/4/1 （前回改正：2024/4/1）	現場名	東名高速道路（豊田IC～春日井IC） 名古屋第二環状自動車道 (名古屋IC～飛島北IC,有松IC～上社JCT)
機器工具・車両	清掃用具一式	保護具	ヘルメット、保護メガネ、安全チョッキ マスク、軍手、手袋、墜落制止用器具、安全くつ

見積もり基準をした危険性の評価

重大性(B) 可能性(A)	○　軽微 (不休と休業３日以内)	△　重大 (休業４日以上)	×　極めて重大 (死亡・障害が残る)
○ ほとんど起こらない （５年に１回程度）	○○ (極めて小さい)	○△ (かなり小さい)	○× (中程度)
△ たまに起こる （１年に１回程度）	△○ (かなり小さい)	△△ (中程度)	△× (かなり大きい)
× かなり起こる （６ヶ月に１回程度）	×○ (中程度)	×△ (かなり大きい)	×× (極めて重大)

危険性又は、有害性の評価と危険度の判定基準例

危険性の見積もり	危険性の評価	危険度	判定
××	極めて重大	5	即座に対策が必要
×△、△×	かなり大きい	4	根本的対策が必要
×○、△△、○×	中程度	3	何らかの対策が必要
△○、○△	かなり小さい	2	現時点では必要なし (様子を見る)
○○	極めて小さい	1	対策の必要なし

作業区分		作業手順・作業内容	急所	危険ポイント （～なので～になる）	ﾘｽｸの見積り (A)	(B)	ﾘｽｸ	安全対策（危険度２以下へ） （私達はどうする）	ﾘｽｸの再見積り (A)	(B)	ﾘｽｸ
準備工	作業確認	作業の打合せ(KY)を行なう	作業員全員で	手順を間違えて思わぬケガをする	△	×	4	全員で手順書、KYの内容を周知する	○	○	1
		作業員の役割（運転手、助手）を決める	免許証・免許区分の確認を運転手・助手の二人で行って	免許区分の理解不足で、無免許運転をしてしまう	○	×	3	乗車時に必ず免許区分明示車両ｽﾃｯｶｰを確認する	○	△	2
		作業場所及び車線を確認する	上下、kp等の情報を踏まえ、作業員全員が理解できるように	/	/	/	/	/	/	/	/
		使用機械、工具等の点検を行う	作業前に	作業中に機械が故障し、思わぬケガをする	△	×	4	作業前に必ず道具、工具、機械類の点検を行う 刃の可動部、連結部はレンチ等の工具にて緩みが無いことを必ず確認し、始動確認を行う。	○	○	1
		交通規制状況を確認する	必ず当日の規制簿を使用して	/	/	/	/	/	/	/	/
		しらすんだーの動作確認を行う	朝礼時に作業員全員で毎日動作確認をする	電池切れて緊急時、逃げるのが遅れる	△	×	4	毎日動作確認をし、電池が減ったら交換する	○	○	1
	車両確認	セーフティーバイブル		25.車両回送手順書に則る							
	作業車両準備										
	作業車両点検										
	出発準備										
本作業	出発										
	規制内進入										
	車両移動停止										
	逸走防止										
	使用機器等	車両から必要機械を降ろす	①手袋などを着用して ②手・指挟まれに気をつける。声かけ、合図をして	①荷台から飛び降りて怪我をする ②手・指が挟まれて怪我をする	△	△	3	無理な搬出はせず、サイドカバー・タイヤ等安全な足場から車両に正対して昇降する。飛び降りない。	○	△	2
	作業車両配置	高所作業車を配置する	高所作業車手順書に則って	高所作業車作業手順書に則る							
	撤去作業	チェーンブロック等を使用する際は、アンカーを天井に打ち込みチェーンブロックで吊る。(人力ではずすことが難しい場合)	アンカーがしっかりと効いているか確認する。	削孔する際、コンクリートの粉が目に入る	△	△	3	保護メガネを着用する	○	○	1
		既設ボルトをはずし既設アンカーからはずしチェーンブロックで位置を少しずらす。(人力ではずすことが難しい場合)	チェーンブロックが確実に点検足場を支えられているか確認する。	巻き上げる際、指を挟んでしまう。	△	×	4	巻き上げる時に指の位置をよく確認し作業する。	○	○	1
		デッキに乗せれるようなら（重量的に）下まで運び搬出する。 デッキに乗せれないようならクレーンで吊って下までおろす。	重さを確認し下ろし方を選定する。	クレーンで吊る際、つり荷が崩れて落下してしまう。	△	×	4	玉掛の有資格者に従事させる。	○	○	1
		既設アンカーをサンダーで切断する。 ※切断時ケーブルが近い場合はケーブルの防護を行う。	手袋などを着用する。 ケーブルをに火花が飛ばないよう、ケーブルを保護する。	サンダーで切断する際、切粉が目に入ったり、肌について火傷する。	△	△	3	保護メガネ、手袋を着用する。	○	○	1
	仕上げ	発生材や道具を片付ける	車線側、他の作業員等十分周囲に注意して	片付け作業やクレーン操作作業が重複し 作業員同士や、クレーンとの接触を起こす	△	△	3	職長は必ず場内全体を監視し、 全体の動きを指示しながら片付けを行う	○	○	1
		清掃道具で場内清掃を行う	車線側への飛散に十分気を付けて	掃き掃除やブロワー使用の際、走行車に気づかず 清掃物が飛散し、接触する	△	△	3	職長は必ず場内全体を監視し、 警笛等を用いて合図をしながら清掃する	○	○	1
		場内状況及び清掃状況を確認する	使用道具や、検測道具など忘れ物の無いように	/	/	/	/	/	/	/	/
	現場離脱及び	25.車両回送手順書に則る									
	帰着	25.車両回送手順書に則る									
	駐車										
	後処理	運転日報・車両使用日報を作成する	責任者への報告・確認も忘れずに	/	/	/	/	/	/	/	/
特記	1人作業	原則1人作業はしない。やむ終えず1人作業をする場合は現地にてKYを実施し、作業員同士目のつく範囲内で作業を行う。尚且つもしもの時の連絡体制を事前に構築しておく。									
	パワーゲートを使用した荷台積み下ろし	パワーゲートを使い荷台にバルーン等を積み下ろし作業をする時は、積載物の落下またはゲート昇降による手の挟まれ、スライドバーの延伸による足挟まれに注意すること	①パワーゲートを昇降させるときは必ず声を掛け合図を行い、手・足が挟まれないことを確認し安全を確保してから昇降させる。 ②バルーン等のタイヤロックを外す時は、必ず声を掛け合図を行い、保持を確認して安全を確保してからロックを外すこと	声掛け合図を怠り、積載物またはゲートに手足をはさまれて怪我をする	○	×	3	パワーゲートを使用する際は必ず2人以上で作業をし、ゲートの昇降をする場合は声を掛け合い挟まれないように安全を確保してから昇降させる。	○	○	1
	台車を使用する場合	台車を使い小運搬を行う時は、台車の逸走による車両等への接触に注意すること	台車は自動ストッパー機能付とする	台車から離れた瞬間に台車が逸走し走行車両と接触する	△	△	3	使用しない時は裏向きにし、Gr外側など走行車両から遠い位置に仮置き。強風の場合はウェイトを置く。	○	○	1